

「何を言ってるのか、これは大切な作業手順だ！これをやることで碎石を吸うか吸わないか事前に知ることが出来る。素人は黙ってろ！」私は言い返してやった。

吸引作業が始まった。

碎石は面白いように吸い込まれて100m先から勢い良く飛び出した。

ホースの出口には古畳が3枚重ねて立ててあり、ホースから飛び出して来る碎石を受けていた。

しかし、ここで予想外の事態が発生した。

赤茶けた碎石がホースの中で転がりながら互いに擦り合って赤錆が取れて大きな粉塵の柱となって立ち昇り、風にあおられて新幹線の方へ降下して行ったのである。

現場監督が水道のホースで碎石に水をかけながら吸わせてみたが、全く効果が無かった。

現場に立ち合っていたJRの技術担当者から作業の中止指示が出て、緊急会議が行われた。

この装置は吸引効果は充分であるが、吐出側の対策を考えないと使用出来ない…との結論である。

いろいろな対策案が出たが、私が納得出来る内容ではなかった。